


栄養・子ども学部 子ども教育学科
教授 出村 友寛 DEMURA Tomohiro
専門・活動分野 測定評価学、健康体力学
最新の研究内容
テーマ：子どもの健康や体力に関する研究
研究/活動紹介

<自由遊びの様子>

①幼児の身体活動量に関する研究

幼児期の身体活動量は、心身の発達において非常に重要です。本研究では、この身体活動量が季節や月によってどのように変化するのかを明らかにすることを目的としています。

具体的な方法として、幼児を対象に活動量計を用いて日々の活動を計測し、そのデータを分析しました。計測は、一日のうち特に活動が活発な午前中の活動に焦点を当てて行いました。分析の結果、幼児の身体活動量には季節による明確な変動傾向が認められました。本研究により、幼児の身体活動量は季節的な環境要因に強く影響されることが明らかになりました。特に活動量が減少しやすい時期には、室内環境の整備や活動内容の工夫を通じて、身体活動を積極的に促す配慮が必要であると考えられます。


②運動発達の見える化を可能にする簡便な子どもの運動能力測定法および評価システムの開発

幼少期は、「ブレ・ゴールエイジ」ともいわれ、神経系の発達が著しく、様々な運動の基礎が形成される時期です。この時期に「運動能力」を適切に発達させることは、運動有能感（運動が得意！練習すればできる！という感覚）を高め、運動・スポーツへの参加機会を増やし、ひいては生涯に渡る健康増進にも影響することが分かっています。現在、日本で推奨されている幼児期の運動能力測定は6項目、世界的に最も利用されている運動能力測定は13項目から成り、項目数が多いことから現場での普及が進んでいません。幼少期の運動発達を見える化するためには、短時間で、意味のある結果を示すことができるような簡便な幼少児の運動能力測定方法とその基準値の開発が必要です。

そこで本研究では、簡便な幼少児の運動能力測定の基準値を開発することを目的としています。日本の子どもを代表する有用な基準値が開発できれば、身長・体重を測ることが日常的なように、運動発達を測ることも日常的となり、子どもの運動環境に対する関心の高まりや運動環境の充実につながると考えています。

<測定風景>


産学連携/地域貢献へのアピールポイント、相談可能事項

- 産学連携: 企業の技術やリソースと連携し、活動量計データ分析や評価システムの製品化・普及を加速し、市場に貢献します。
- 地域貢献: 地域の子育て支援施設や幼稚園・保育園と連携し、エビデンスに基づいた運動指導プログラムや環境改善策を提案。子どもの健康増進と、地域全体の運動教育の質の向上に貢献します。
- 興味を持って頂けたら、お気軽にお問い合わせください。

学会・経歴

- 日本体育・スポーツ・健康学会
- 北陸スポーツ・体育学会 (事務局長)
- 日本体育測定評価学会 (評議員)
- 日本教育医学会 (常任理事、編集委員長)
- 全国大学体育連合
- 北信越大学サッカー連盟 (理事)
- 北信越サッカー協会 (理事)
- サッカーサイエンス研究会 (理事)
- 福井県レクリエーション協会 (会員)

<お問合せ窓口>

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail tomodemu@jindai.ac.jp